

## 勤務医部会だより

### 『人(部下)の育て方は難しい』



幹事 川崎晋吾  
(済衆館病院 院長)

済衆館病院 院長の外科医 川崎晋吾です。当院は、1914年(大正3年)創業以来今年で109年になります。名古屋市北部に接する北名古屋市に在りまして、周囲の清須市・豊山町を含めた2市1町の地で地域に根ざした医療を行っております。

当院は、尾張のスーパーケアミックス病院として、病院規模331床(急性期108床、地域包括ケア60床、緩和ケア20床・回復期を含めた療養病床143床)・介護医療院38床(2020/10/1開院)・健診ドックセンター・腎透析センター・デイケアセンター・訪問看護ステーションとそれぞれの役割を担った病棟・部署を整備し、地域住民の皆様が離れた医療機関に赴く必要がなく、救急医療から在宅復帰の支援まで、地域内で安心して医療と介護を受けていただけるような病院をめざして、今日に至っております。

さて、最近の当院内のことですが、院内各部署の役職者や医師の方々の悩みに、「人とどうやって接すればいいのか、どう指導すればいいのか」が難しく、悩ましい。という声を耳にする事が増えてきた印象です。昨今の世間でも同じでしょうが、若い人達の指導の仕方、接し方が昔の感覚とはかなり異なってきています。私など、体育会系感覚で上司から叱られて当然、叱られて仕事を覚えていくものだと感じておりました。しかし、今風ではそれがパワハラと捉えられ、それを恐れ、指導や注意に腰が引けてしまう!といった状況です。そこで、答えになっているか分かりませんが、彼らの悩みに次の言葉をもってお話ししました。

大日本帝国海軍 第26、27代連合艦隊司令長官である山本五十六の部下の育て方に、次の言葉があります。冒頭は、とても有名な言葉です。

やってみせ、言って聞かせて、させてみて、誉めてやらねば、人は動かじ。

話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、

人は育たず。

やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず。

組織の中で、指導的立場に立つものが、仕事を行なっていく際に必ず避けては通れない行為、それが人を育てるということです。山本五十六の言葉を要約すると。人を育てるとは、結局のところ①まず自らが、手本を示す。②こちらから進んで、コミュニケーションをとる。③とことん、相手を信頼する。ということに尽きるようです。

また、元日弁連会長の中坊公平氏が、リーダーが大事にすべき「三つの面」について、述べてみます。

- ①目的を理路整然と相手に伝える「正面の理」。
- ②相手と愛情深く関わり、成長を温かく願う「側面の情」。
- ③そのような接し方をしても答えない相手とほどよい緊張感、ある種の厳しさをもって接する「背面の恐怖」。

やはり「側面の情」はとても大事なようです。しかし「背面の恐怖」の使い方の匙加減はとても難しいです。

さて、皆様方は、施設でどのように指導されているのでしょうか？